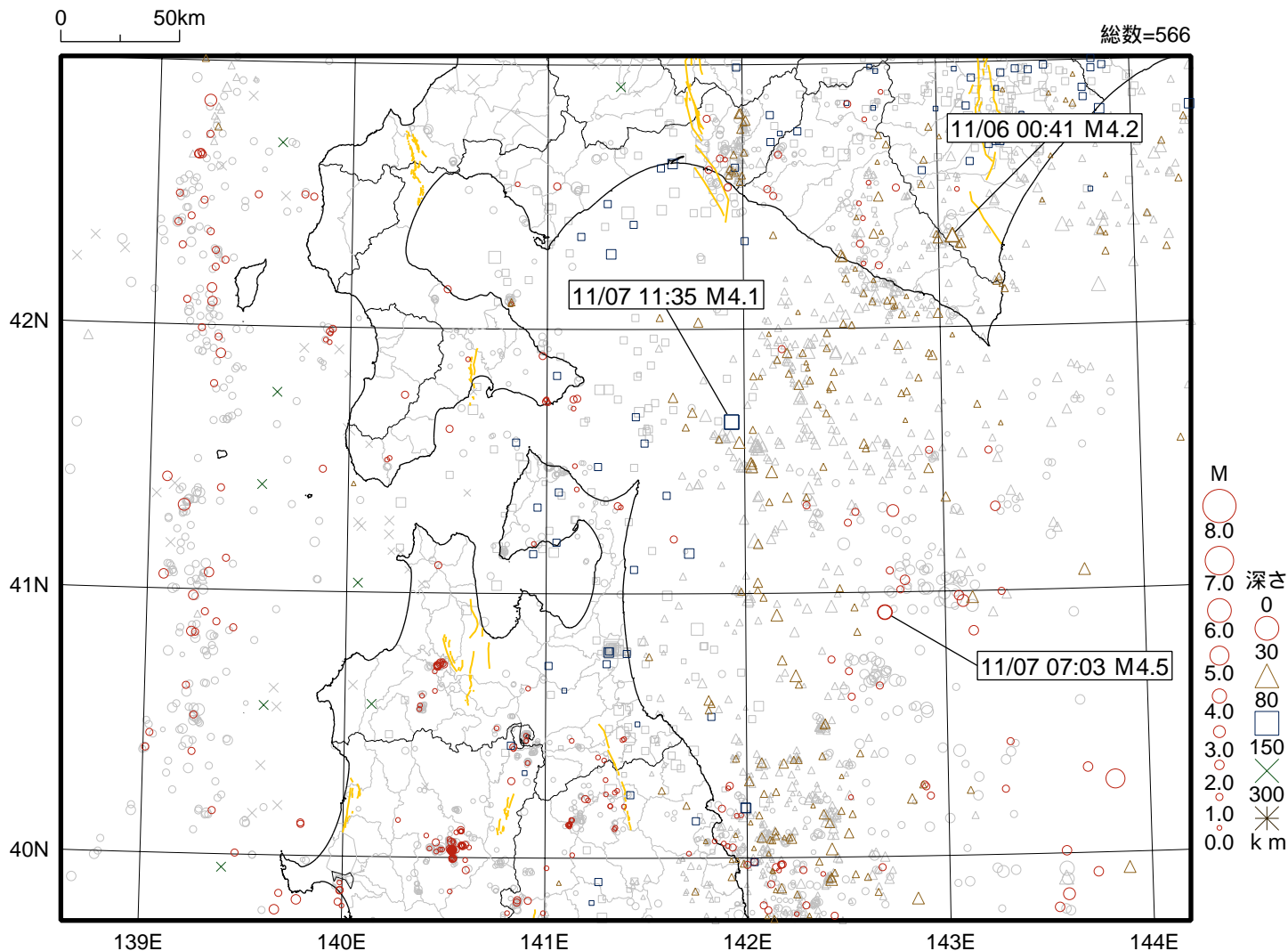


渡島・檜山地方の地震活動図

2019年11月1日～2019年11月30日

震央分布図

函館地方気象台



これは暫定値であり、データは後日変更することがあります。

記号Mはマグニチュードを表します。

図中橙色の線は地震調査研究推進本部による主要活断層を表します。

過去の地震活動と比較するため、前3ヶ月（今期間を含まない）の震央を灰色のシンボルで表します。

地震概況（2019年11月）

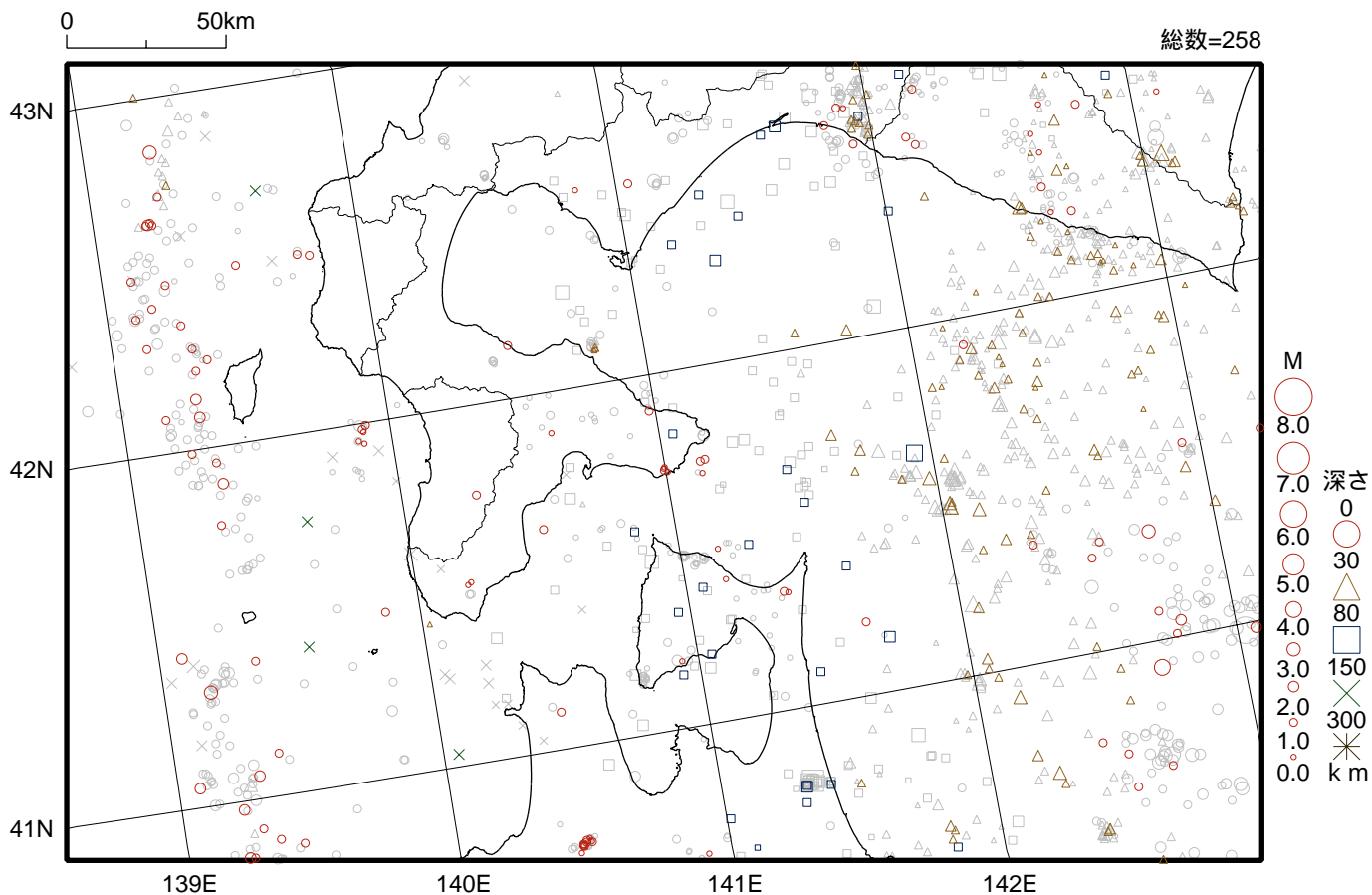
この期間、渡島・檜山地方の震度観測点で震度1以上を観測した地震は5回（前月は4回）発生しました（「震度1以上を観測した地震の表」参照）。

7日11時35分、苫小牧沖の地震（M4.1、深さ110km）により、函館市泊町で震度2、函館市新浜町で震度1を観測しました。

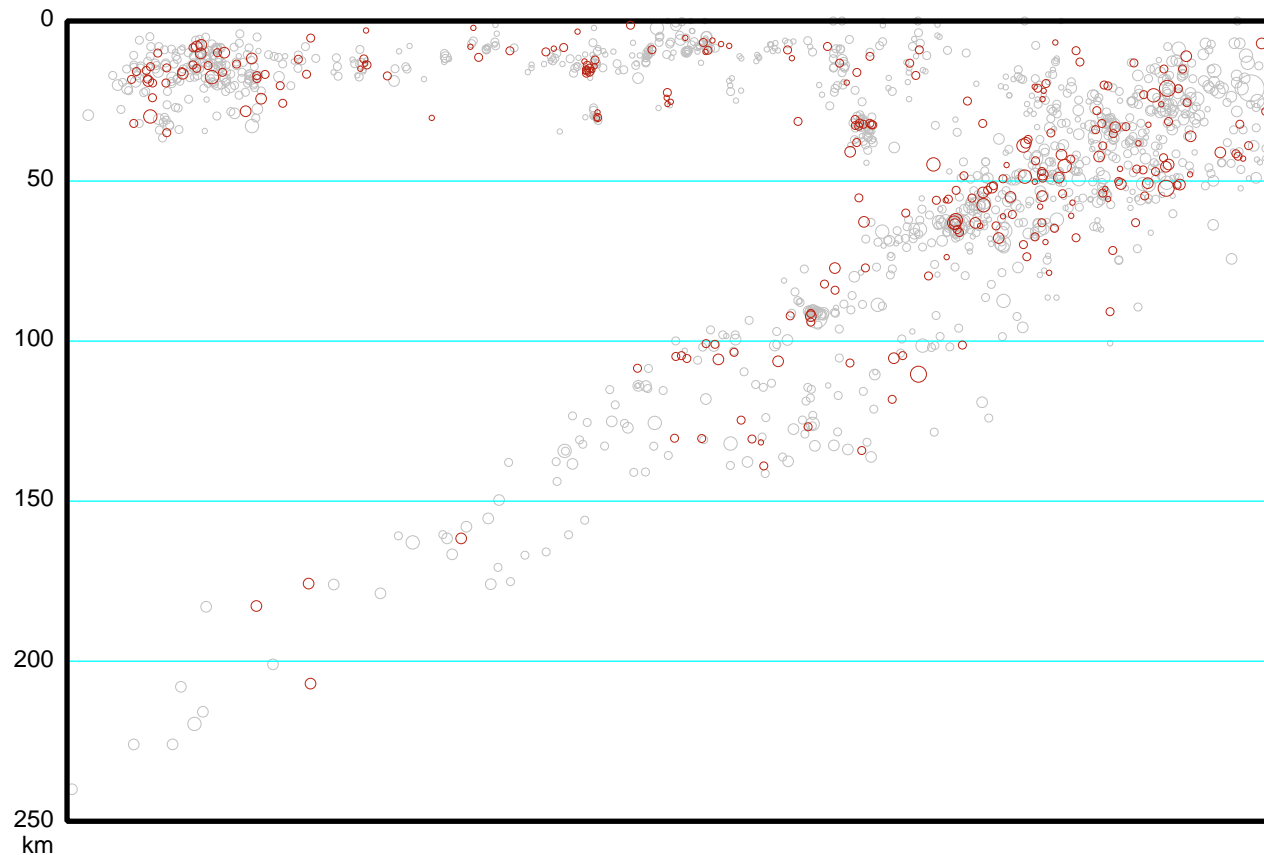
この活動図は、函館地方気象台のホームページに掲載しておりますのでご利用ください。
ホームページのアドレスは、「<https://www.jma-net.go.jp/hakodate-c/>」です。

2019年11月1日 ~ 2019年11月30日

震央分布図



断面図



これは暫定値であり、データは後日変更することがあります。
記号Mはマグニチュードを表します。
過去の地震活動と比較するため、前3ヶ月（今期間を含まない）の震央を灰色のシンボルで表します。

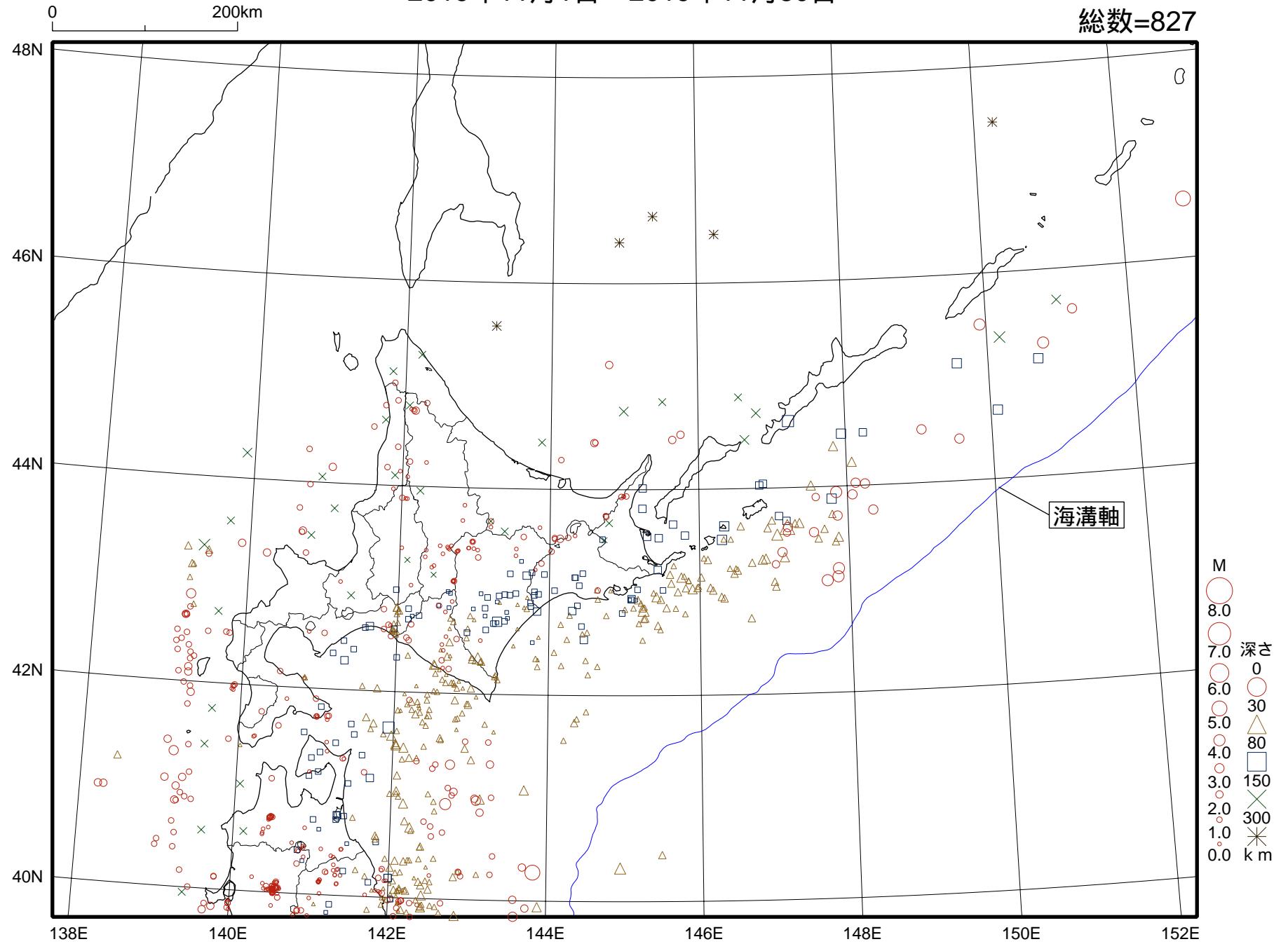
北海道の地震活動図

2019年11月1日 ~ 2019年11月30日

札幌管区気象台

総数=827

震央分布図



震度 1 以上を観測した地震の表 (2019年11月)

年 月 日 地方	時 分 震度	震央地名 震度観測点名	北緯 (N)	東経 (E)	深さ (k m)	規模 (M)
2019年11月 6日 渡島地方	00時41分 震度 1	十勝地方南部 函館市泊町 * (07)	42 ° 20.8 N	143 ° 04.2 E	52 k m	M4.2
2019年11月 7日 渡島地方	07時03分 震度 1	青森県東方沖 函館市泊町 * (12)	40 ° 55.4 N	142 ° 41.8 E	21 k m	M4.5
2019年11月 7日 渡島地方	11時35分 震度 2 震度 1	苫小牧沖 函館市泊町 * (20) 函館市新浜町 * (07)	41 ° 38.9 N	141 ° 56.1 E	110 k m	M4.1
2019年11月20日 渡島地方	17時26分 震度 1	サハリン近海 函館市新浜町 * (08)	53 ° 09.7 N	153 ° 41.1 E	487 k m	Mw6.3
2019年11月23日 渡島地方	21時58分 震度 1	北海道東方沖 函館市新浜町 * (09)	43 ° 37.0 N	147 ° 10.7 E	34 k m	M5.4

各地の震度は、渡島・檜山地方のみを掲載しています。

* のついている地点は地方公共団体または国立研究開発法人防災科学技術研究所の震度観測点です。

地震概況ではセントロイドの深さで表現した地震が含まれている場合があります。

震源の緯度、経度、深さ、規模は暫定値であり、データは後日変更することがあります。

()内の数値は0.1単位の詳細な震度 (計測震度) の小数点を省略して表しています。

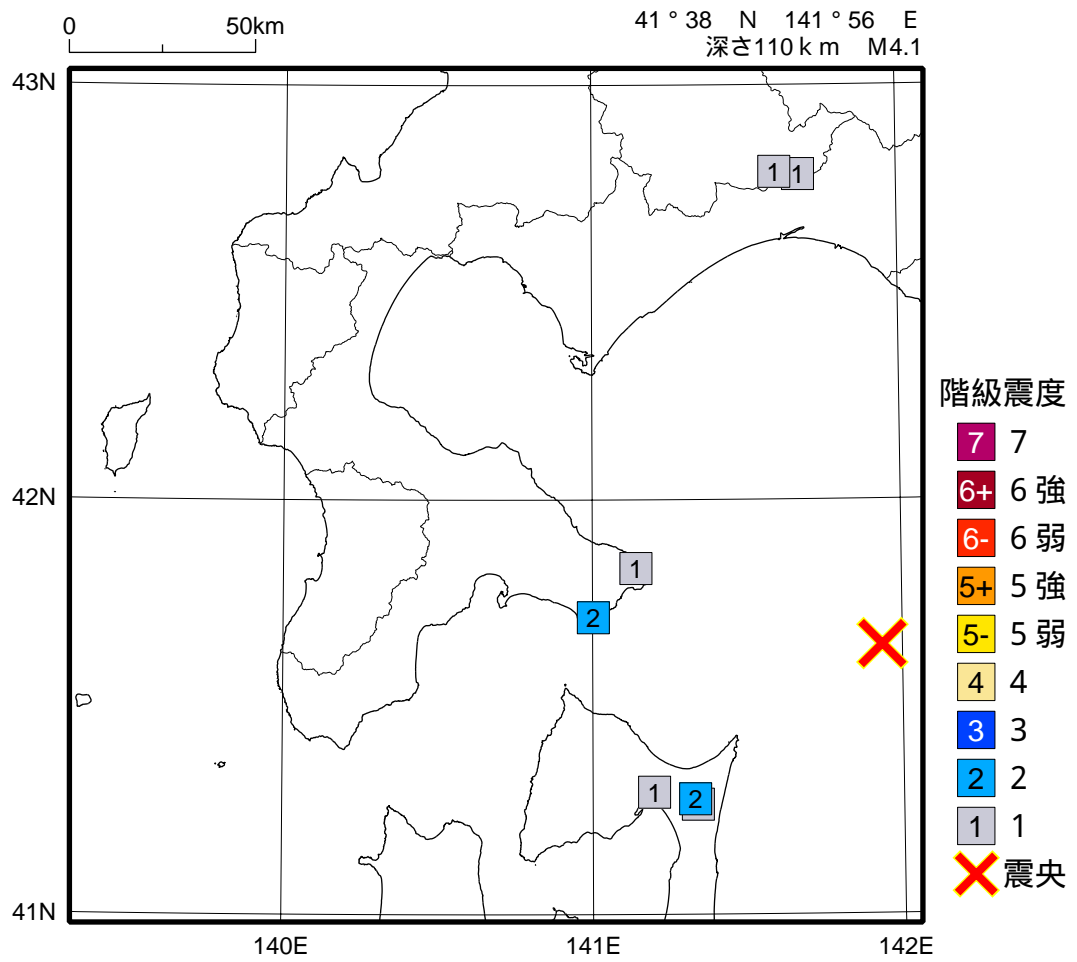
計測震度と震度階級の対応は下表のとおりになっています。

計測震度と震度階級の関係

計測震度	~0.4	0.5~1.4	1.5~2.4	2.5~3.4	3.5~4.4	4.5~4.9	5.0~5.4	5.5~5.9	6.0~6.4	6.5~
震度階級	0	1	2	3	4	5弱	5強	6弱	6強	7

本資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを用いて作成しています。また、2016年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点 (河原、熊野座)、米国大学間地震学研究連合 (IRIS) の観測点 (台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東) のデータを用いて作成しています。

2019年11月 7日11時35分 苫小牧沖の地震の震度分布図



【防災メモ】

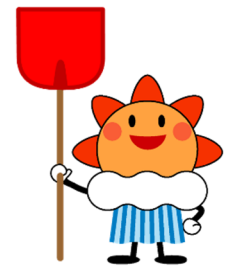
～冬の地震に備えて～

北海道はこれまでも、地震により多くの被害を受けていますが、地震はいつ発生するかわかりません。冬に地震が発生した場合は、積雪や寒さなどにより、夏よりも被害が大きくなるといわれています。今回は、冬に地震が発生した場合の備えについて紹介します。

< 1. 雪に対する備え >

屋根に雪が多く積もっていると、雪の重みにより家の倒壊の危険性が高くなります。また、地震の揺れによる屋根からの落雪で、避難路がふさがれることもありますので、日頃から自宅周辺などで落雪のおそれがあるところを確認しておきましょう。

避難時は、積雪や凍結等の路面状況や吹雪などにより、避難所までの移動に時間がかかりますので、避難所の場所と経路について事前に確認をしておきましょう。



< 2. 火災に対する備え >

冬は、夏と比べて風が強くなり空気が乾燥し、ストーブなどの暖房器具を使用するので火災発生の危険性が高くなります。暖房器具のそばに燃えやすいものを置かないようにし、地震の揺れで家具が転倒しないよう固定しましょう。

また、停電から復電した時の火災にも注意が必要です。通電時に壊れた電化製品などがショートして、火災が発生することがあります。避難するときにはブレーカーを切るようにしましょう。



< 3. 寒さへの備え >

地震によって電気やガスなどのライフラインがストップし、暖房器具が使えなくなることが考えられます。そのため、寒さをしのぐ準備が重要です。

避難する時に、避難所が温かいとは限りません。防寒着、防寒靴、毛布、カイロなど寒さ対策の用意をしておきましょう。また、ポータブルの石油ストーブなどを使用する場合には、こまめに換気をして一酸化炭素中毒にならないよう気をつけてください。



< 4. まとめ >

冬に地震が発生した場合には、雪や火災などによる二次災害が発生しやすくなります。また、積雪や降雪により、救助活動の遅れや物資輸送が困難になることが考えられます。冬の地震の備えは、安全確保や非常持出し品のほかに、雪や寒さに対する準備も必要です。